

平成 18 (2006) 年度

第 3 回知床エコツアーリズム推進協議会

議事概要

第3回知床エコツーリズム推進協議会 議事概要

平成19年(2007年)3月15日 13:00～15:00 於：斜里町ゆめホール知床

出席者：別紙出席者名簿を参照

会議次第

- 【1】 挨拶
- 【2】 出席者紹介
- 【3】 議事
 - 1) 平成18年度事業報告について
 - 2) 知床エコツーリズムガイドライン(案)について
 - 3) 知床エコツーリズム推進実施計画(案)について
 - 4) 平成19年度事業内容について
 - 5) その他

平成18年度 第3回知床エコツーリズム推進協議会閉会

【1】挨拶

上野会長：

エコツーリズム推進協議会も大詰め、最後の会議です。

これまでの3年間の事業をまとめ、いったん閉めさせていただいた上で、19年度に引き継いでいくことになります。

12月の協議会で、若干の組織の組み替えはあるものの、継続していこうということで、ご確認いただいています。今後もいろいろな形でお世話になりますので、よろしく願いいたします。今日もテーマが多いかと思いますが、ご意見よろしく願いいたします

【2】出席者紹介

自己紹介(別紙出席者名簿参照)

【3】議事

進行：上野会長

1) 平成 18 年度事業報告について

昨年 12 月行われた推進協議会にて中間報告としてご報告済みのため、12 月以降の報告について、資料「平成 18 年度事業報告(概要)」に従い説明。

環境省事業：田中（知床財団）

北海道事業：長谷川（北海道）

羅臼町・斜里町事業：田中（知床財団）

上野会長：

何かご質問あれば頂きたい。なければ、またあとで頂くとして続けます。

2) 知床エコツーリズム・ガイドライン（案）について

事務局（知床財団：田中）：

資料 に沿って説明します。赤字で修正が入っておりますのは、12 月の推進協議会以降の各種説明会、ワーキングでご意見を頂いて、修正をした部分です。本日の協議会でご承認いただいて、案から成案にしていきたいと思います。資料 4 で、頂いた意見とそれに対する修正を一覧にしております、あわせてご参照ください。

(資料 に沿って修正点を説明)

上野会長：

ガイド事業者が事業を行う際の基準となるガイドラインとして積み上げてきた。ガイドとガイド事業者が守るべきものとして地域特性に合わせて作っている。これが成案した以降は、ガイドを中心として企画されるツアーはこれにしたがって展開していただくことになる、大事なものである。ただ、ガイドラインは大枠の定めとなり、実際のツアー実施に当たっては、細かいルールのようなもの必要になってくるかと思う。そういったものは環境や実態に合わせて作って行く事になる。ガイドラインに関しては、ここでいったん成案にして、改訂を重ねていくものと考えている。出発点としての大枠として承認いただきたい。

知床自然保護協会（綾野）：

3 ページ、知床五湖の現状と課題の部分について誤解を招く表現がある。ガイド付きツアーが渋滞を起こしている、という表現があるが、実際はガイドなしの団体が渋滞を起こしていて、ガイドがそれをスムーズに流している状況もある。

上野会長：

修正により追加された「ガイド活動により、一般利用者の妨げにならないように配慮する。」という一文と対になっているかと思う。

知床自然保護協会（綾野）：

追加分はガイドの留意事項として妥当であり問題ない。3 ページ部分の現状認識が、ガイドが渋滞を生んでいるという誤解を含んでいる。実際にはガイドなしの団体による渋滞を、ガイドがボランティアで交通整理したりすることもあり、ガイドに失礼でもあり、修正して欲しい。

上野会長：

ガイド付でない団体が本質的に問題なんだという指摘かと思う。流れとしては、ガイド付きツアーを中心に五湖を展開していくのが今後の本命になると思う。ガイドに対して行うガイドラインなのに、ガイドが悪い、ということで始まるのは不適格かもしれない。多少表現を検討したい。

3）知床エコツーリズム推進実施計画（案）について

事務局（知床財団：田中）：

資料「エコツーリズム推進実施計画(案)」は、3 ヶ年のモデル事業を引継ぎ、今後の展開について、よりどころとなるビジョンを示すものである。ガイドライン同様、12月の推進協議会以降にご意見いただいたポイントと、それに対応する修正について資料4にまとめてあり、参照いただきたい。（資料 ， に従い説明）

上野会長：

3年間のモデル事業を終え、今後こういう風にやっていこう、というプランである。環境省の利用適正化検討会議などと整合性を取りながらやっていかなければならないと考えている。環境省はこれについていかがでしょう。

環境省釧路自然環境事務所（長田）：

基本的な部分については、利用適正化検討会議と整合性を取って進めていただいている。重要な事項についてももしっかり取り組んでいただいていると考えている。

上野会長：

林野庁の方はどうでしょう？

知床森林センター（谷本）：

ガイドラインのアクティビティ毎のものは、今後に作成を検討されているものあるかと思う。今後の枠組みの中でガイドラインの作成機能はどこが窓口になるのか。

事務局（知床財団：田中）：

ガイドラインの作成に関しては、両町観光協会、ガイド協議会、知床財団の4者が検討する体制になると考えている。特にガイド協議会については、大まかなガイドラインではカバーできない現場レベルの細則を作っていくことになる。

上野会長：

これまで知床財団が原案を作ってきたが、実際に適用させるには、現場の声は当然反映することになる。4者で協議しながら行うということになると思う。

知床森林センター（谷本）：

今後まだ手をつけていないルールの策定時にどこが窓口になるのかをクリアにしたかった。4者が協議する場が設定されて、そこが窓口になると認識した。

上野会長：

今後の組織作りの課題であるが、環境省、林野庁など行政が、どこかでコミットしてもらわないと、やはりまずいと思う。基本的に民間の4者が今後協議の上、実施していくなかで、行政としてなんらかのチェックポイントが必要なのではないか。推進協議会、あるいは将来的にはエコツーリズム協会なのかもしれないが、ここに参加するのか、あるいは、オブザーバーとしてでも関係する程度なのか、どう考えているのか意見を聞きたい。

環境省ウトロ自然保護官事務所（河野）：

モデル事業は終了するが、環境省がエコツーリズムを推進していこうという方針は変わっていない。もちろん関わっていくことになるが、具体的にどういう形ということは決まっていない。今後相談させていただきたい。

上野会長：

将来、例えばエコツーリズム協会などを成立させることも想定される、民間団体ということにはなるだろうが、オブザーバー参加何らかの形で参加するということはどうなのか。

環境省釧路自然環境事務所（長田）：

協議会としてどのような行政の関与が望ましいのかご議論いただきたい。まず組織としての協議会なのか、会議をするための協議会なのか、という点、それから、協議としての枠組みの中に行政が入る方がいいのか、協議には行政が入らず独自性を保ちながら、外部から積極的な支援と、行政の方向性と矛盾が無いチェック機能を持ってもらう関わりなど、一つというわけではなく複合的なパターンが考えられると思う。

行政側の意見となると環境省だけの判断というわけにはいかないが、環境省と関係の無いところで進んでいくよりは、一緒に議論した方が早く到達できると考えている。

上野会長：

組織の作り方は、なかなかイメージが固まっていない。今後の認定制度を進める際の権威付けや、各種情報、もちろん予算などについても、協力が必要な場面が出てくるかと思う。お声がけさせてもらうので、林野庁、環境省、ご協力お願いしたい。

4) 平成19年度事業内容について分担案

事務局（知床財団：田中）：

推進実施計画は大まかなビジョンであったが、19年度の具体的な事業分担イメージの表である。あくまで案であり、今後の検討の中で詳細が決まっていくもの。（資料「平成19年度事業分担（案）」について説明）

上野会長：

19年度の実施計画についてはまだまだ抽象的な部分もあるが、具体的なものとしては、知床五湖などでのガイドラインの運用が上がっている。混雑による踏み荒らしや、満足度の低下が指摘されている現状の改善について取り組んでいきたい。知床五湖については今回成案するガイドラインとともに、ガイド事業者による自主的な運用ルールもまとめられていると聞いている。

知床ガイド協議会（石見）：

ガイド事業者間で今まで、はっきりしていなかったものを、知床五湖利用の基本的ルールとしてまとめていて、近く提言する準備は出来ている。

上野会長：

先程の議論でもあったが、ガイドが案内していない団体、バスガイドが案内して

いる団体なども多い。ここに基本的なルールを適用して、問題の改善を図りたい。シーズン前には、ガイド協議会で起案されるガイドラインに沿った運用ルールをいろんな形で広報に載せて行きたい。

知床ガイド協議会（石見）：

ガイド協議会内部でルールを作っても、これに実効性を持たせるためには、環境省などの協力が必要。環境省は一緒にやる気があるのか、確かめたい。

環境省釧路自然環境事務所（長田）：

具体的な施策については環境省だけでは決められないので、利用適正化の検討の中で、いくつも議論の場があり、安全の観点からカムイワッカの議論、自然環境の保全と質の高い体験の提供ということで利用の適正化検討など、複層的に議論があり、合意してきた。この合意は尊重していきたい。環境省としての意思表示がはっきりしていないのでは、というご指摘だが、積極的な自然利用と、保護のバランスを目指すのは基本方針であり、その歴史性や、出てきた結論に関しては尊重した上で、積極的支援をしていくつもりだ。

上野会長：

基本的には保護と利用のバランスを目指して協議しているのだが、具体的にどこまで OK なのか、という問題には、なかなかクリアな解答が出てきていない。そこで現場は苦しんでいる。実際にはテスト期間を作り実際にやってみる、そこで出てきた問題をまた修正していくという、やり方がいいのではないかと。ガイド協議会さんも、どんどんアイデアを出していく、それをみんなでチェックしていく。新しい取り組みであることが多いので、そういった実験を繰り返しながら、バランスを探ることになるのではないかと。

知床ガイド協議会（石見）：

五湖が一番大きな問題であるが、環境省の方針はなかなかはっきりしない。遊漁船の例や、シカ問題でも動きがあまりにも遅いと感じる。本当に自然を守る気があるのか。エコツーリズムの推進も、このままであれば紙だけで終わってしまう。いいものだと支援するならちゃんと参加して欲しい。また、担当者の移動によって、随分方針が変わっていくように感じる。

環境省釧路自然環境事務所（長田）：

シカ対策や遊漁船なども、実際には動いている。参加の方法は、主体として参加するのか、チェック機能となるのかいろいろあり、相談していきたい。担当者に

よって方針が変わるということは往々にしてある。行政官として異動してしまう宿命はあるので、協議した結果を文書で残し、その合意に基づき、実施をしていくことになる。ご理解をいただきたい。

上野会長：

環境省は他省庁に比べ現場に足を運んでいると評価している。その分、現場の意見を取り入れて、すっぱり結論が出ない部分もある。五湖については、木道の延長と地上歩道のコントロールも動いている。両者はセットだというのは、駆け引きのようになって気がかりだが、いずれにしろ地元としての意見をまとめて、提示すべきだとは思っている。

19年度は五湖のスムーズな利用というのを、ガイドラインの運用のテーマとして考えている。自然が好きなガイドの人たちの意見、ルールで一般の人たちを誘導していくような方向なので、自然保護の観点からも、そんなに大きく外れたものにはならないと考えている。おって羅臼湖での対応も具体化していくであろうし、協議することは多いので皆様のご協力をお願いしたい。

他よろしければ、ご協議いただいた、ガイドライン、推進実施計画など、このように進めさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、よろしく願いいたします。

5) その他

事務局（知床財団：田中）：

エコツーリズムシンポジウムの報告。世界自然遺産である、屋久島、白神、遺産候補である小笠原のエコツーリズム推進の状況について各地の特徴と課題などを解説。(資料)

上野会長：

知床同様、いろいろな課題をどこも悩んでいる。エコツーリズムは新しい産業であり、出てくる問題も新しい。一つ一つ新しい問題に対応しながら進めているという苦労を実感している。

その他、北海道、羅臼町、斜里町からは何かあればどうぞ。

斜里町（村田）：

今後の支援体制だが、羅臼町との協議の上、両町に関しては3年間の経過を踏まえ今後も支援をしていくが、この3年間とは形を変えることになる。これまでは受託事業として町の直営事業としてやってきたものを、今後は民間である協議会の事業を助成金等の形で支援することになる。組織の中にいるか外にいるか、と

いうと外にいて、意思決定事態は次第に民間で決定していくことになるだろうというスタンスではあるが、もちろんいろいろな形で深く関わっていくつもりだ。

上野会長：

今日は長い時間ありがとうございました。このような形で進めていきたいと思えます。行政機関の方々には今後も協議に入っていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

平成 18 年度 第 2 回知床エコツーリズム推進協議会閉会

平成18年度 第3回知床エコツーリズム推進協議会出席者名簿 平成19年3月15日 斜里町ゆめホール知床 公民館ホール

区分	構成団体・機関	会議出席者
構成団体	斜里町商工会	事務局長 菊地孝司
	知床斜里町観光協会	役員 喜来規幸
	知床温泉旅館協同組合	組合長 上野洋司
	知床民宿協会	桂田鉄三
	斜里第一漁業協同組合	
	ウトロ漁業協同組合	
	斜里町農業協同組合	
	斜里ハイヤー株式会社	
	道東観光開発株式会社	
	斜里バス株式会社	取締役総務部長 下山誠 ・ 営業企画 菅原英人
	知床自然保護協会	理事 綾野雄次
	斜里山岳会	会長 遠山和雄
	知床ガイド協議会	代表 石見公夫
	(社)北海道ウタリ協会斜里支部	
	羅臼町商工会	
	知床羅臼町観光協会	会長 辻中義一
	羅臼町・知床世界自然遺産協議会	会長 辻中義一
	羅臼町旅館組合	組合長 本間正子
	羅臼漁業協同組合	漁業調整課長 竹田和人
	羅臼遊漁船組合	事務局長 石見公夫
羅臼町酪農振興協議会		
阿寒バス株式会社		
羅臼ハイヤー株式会社		
羅臼山岳会	副会長 佐々木泰幹	
(社)北海道ウタリ協会羅臼支部		
協議会事務局	北海道本庁	主幹 近藤哲司 ・ 主査 長谷川浩幸
	網走支庁	環境生活課長 須藤進 ・ 主事 佐々木恒介 ・ 観光振興係 熊谷洋平
	根室支庁	環境生活課長 坂上宏志
	羅臼町	環境管理課長 木村幸治 ・ 水産商工観光課長 寺澤哲也 ・ 商工観光係長 川端達也 ・ 自然保護係長 田澤道広
	斜里町	環境保全課長 村田良介 ・ 商工観光課長 佐藤昭 ・ 観光係 村上和志
	知床財団	普及研修係 寺山元 ・ 田中直樹 ・ 坂部皆子
関係行政機関	環境省釧路自然環境事務所	保全整備課長補佐 川淵義昭 ・ 国立公園企画官 長田啓
	ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官 河野通治 ・ 自然保護官 平井泰
	羅臼自然保護官事務所	自然保護官 安藤弘 ・ 若松徹
	林野庁北海道森林管理局	
	根釧東部森林管理署	次長 三浦学
	網走南部森林管理署	流域管理調整官 高橋秀明
	知床森林センター	所長 谷本哲朗